第11回全国高校選抜大会総評

パワーあふれる熱戦を展開

全国高体連ハンドボール部
副部長 日 野　博

第11回全国高校選抜大会は、3月24日午後3時から開会式を行い以後5日間にわたって愛知県立体育館に全国各地のブロック予選を勝ち抜いた男女52チームによって盛大に開催された。

11回を迎えた今大会は、ルール改正1年目であったが、ルール改正点の効果的な面を充分に発揮していたようである。また、本年はソウル・オリンピックの年でもあり、全日本男子チームの健闘を期待するかのごとく、後輩の高校生たちも1回戦よりパワーあふれる熱戦を展開した。その中で頂点を極めたのは、男子・横浜商工、女子・名古屋短大付属高で、ともに3年ぶり2回目の優勝であった。

本大会の男子Aブロックでは岡崎城西高と熊本市商高が予想通り攻守に優れ、準決勝へ進む。Bブロックでは明星高を中心に浦和実高、小松明峰高が予想されたが、明星高の巧技の前に屈する。Cブロックは中京高、桃山学院高といった伝統校が横浜商工に立ち向かったが、横浜商工の実力が勝る。Dブロックは九州地区1位の小禄高に対し、市川高、永見高、瓊浦高が挑戦するが、小禄高が走力とテクニックで下す。

準決勝は2試合とも関東対九州の対戦となる。熊本市商高対明星高は、前半熊本市商高が自己のペースで有利に展開する。後半になると一時9点差でリードしていた熊本が調子を乱している間に明星高は、走力を生かし粘り強さを十分に発揮し、全員が捨て身で追い込み、延長戦に持ち込む。延長戦でも明星高の勢いが勝り、逆転勝ちを飾る。

小禄高対横浜商工は、1点を争う好ゲームで、小禄高がセットプレーと走力で昨年の国体時の選手を擁し、前半有利に進める。一方横浜商工は全員が自己のペースを守り、確実にパスワークとロングで4点差あったのを残り1分で逆転し、底力を発揮した。

決勝戦は関東同士の対戦となった。関東大会では横浜商工が勝っているが、明星高の健闘が期待された。

しかし、横浜はプレッシャーもなく、前半より確実にのびのびと特技のパスワークと速攻で相手に調子を出させないで前半を大きくリードする。明星も早くペースを取り戻すよう努力するも横浜は自己のペースを終始守り快勝する。

女子は、Aパートは63年度の高校総体を控え、強化している鈴蘭台高、常連の山陽女子高、二連覇を狙う昭和学院高であったが、苦戦の連続の末昭和学院高が進出する。Bパートは、昨年のインターハイで優勝、新チームにも当時のメンバーを残している佼成学園高に対し、粘りの読谷高がよく健闘し、残り1分で2点差を追いつき延長戦に持ち込み、結局PTCで勝った。Cパートは宣真高が名古屋短大付属高に対しよく食い下がったが、結局実力に勝る名古屋短大付属高が勝つ。Dパートは、有望視されている小松商高に対して熊本女商高、岩国商高が挑んだが、実力、体力ともに勝る小松が準決勝に進出する。

準決勝の昭和学院高対読谷高はともに3回目の延長戦を戦う。幸運は昭和に傾き、昨年に続き決勝戦へ。

一方名古屋短大付属高は小松商高を走力・シュート力にて振り切り、決勝戦へ。

決勝戦は、名古屋短大付属高は前半固くなって得点できず、一方昭和学院高はチャンスを生かして4点の差をつけて前半を折り返した。後半にはいり、名短付は猛反撃を見せて開始10分で逆転、2度目の優勝を飾った。

本大会で感じたことは、選手は体格及びボール操作などに優れ、得点力、攻撃力にも優れているがディフェンスが劣る。新人のため末完成と思われるが、失点をなくす防衛力に一工夫足りないように感じる。残り時間が少なくリードしているのに1分か30秒で同点になり、延長戦となるケースが多く感じられた。

男子決勝戦において、選手紹介のあと両チーム監督がレフェリーに花束を贈呈した光景は、競技役員、選手、ベンチ、観衆が一体となった。これはハンドボール競技の醍醐味、スリル、スピードと競技内容とベンチなどが一致し、まさに館内がハンドボール一色となった素晴らしい光景であった。

1、2回戦で敗れたチームの中にも好チームが多く、男女とも本命のない大会であったが、8月のインターハイでは、各チームとも十分に鍛え、兵庫県加古川の地に覇を競うであろう。また、愛知県名古屋市ハンドボール協会のみなさま、学年末の多忙の中で盛大で中味の濃い大会を開催できたことを心より御礼申し上げます。

男子

▼1回戦

麻生（茨城）16〔7—6 9—8〕14 青森商（青森）

〔戦評〕両チームともキビキビした動きで一進一退の得点経過。青森、麻生とも5番（青森・小鹿、麻生・小貫）を中心にゲームを組み立て、青森はポスト、カットイン、麻生は速攻とスカイで前半は7—6と麻生の1点リードで終了。

後半に入ると、麻生はミドルシュート、速攻、フォーメーションなどで連続得点し、主導権を握ったかに見えたが、青森は粘り強く追撃し、13—13と同点に持ち込み白熱した好ゲームとなる。残り1分、麻生・小貫のインターセプトからの速攻で勝利を握った。

	〔青森商〕	得	〔麻生〕	得
GK	中村	0	荒野	0
GK	藤本	0	箕輪	0
FP	市川	0	小林	1
FP	山田	2	宮内	4
FP	藤田	1	横山	1
FP	小鹿	3	小貫	8
FP	沢田	3	羽生	0
FP	福士	0	塙	2
FP	伊藤	3	松澤	0
FP	福島	0	小澤	0
FP	大村	0	山田	0
FP	大浪	2		
PT		(3)		(0)
		14		16

（審・夏目・松ヶ谷）

熊本市商（熊本）22〔9—8 13—13〕21 長浜北（滋賀）

〔戦評〕立ち上がりは長浜北ペース。サイドシュート、ポストプレーで得点、熊本市商は17分間、PTの得点のみで苦しむが、タイミングのいい作戦タイムにリズムに乗り、岩本の活躍で逆転に成功。

後半は、両チーム点の取り合いとなり、熊本市商ベンチは、長浜北の吉川をマンツーマンディフェンスして流れを変え逃げ切った。

善戦の長浜北であったが、ノーマークシュート、PTの失敗が悔やまれる。

	〔長浜北〕	得	〔熊商〕	得
GK	森	0	荒木	0
GK	上田	0	東	0
FP	川瀬	3	鶴田	4
FP	吉川	2	宮本	0
FP	森田	0	赤星	0
FP	馬場	4	門口	0
FP	服部	3	内田	0
FP	霜出	5	岩本	10
FP	浅尾	0	渡辺	0
FP	城楽	0	平田	5
FP	伊吹	4	松尾	2
FP	山口	0	梅井	1
PT		(0)		(6)
		21		22

（審・水越・上小沢）

県岐阜商（岐阜）25〔14—7 11—8〕15 高松商（香川）

〔戦評〕立ち上がり、高松商・藤川のカットインで先行、しかし県岐阜商も井上の4連続得点でひっくり返し、その後も速い展開からポスト、サイド、ロングと着実に加点し、引き離しにかかった。一方リードされた高松商は、大事なところでのイージーミスが多く、せっかくのPTもGKに阻まれるなど思うように得点できなかった。結局、県岐阜商が7点差をつけて前半を折り返した。

後半に入り、両チームともシュートミスが多く、雑な試合展開となった。後半10分あたりまでは高松商が追い上げるが、地方に勝る県岐阜商が前半のリードを守り、勝利をものにした。

	〔高松商〕	得	〔岐阜〕	得
GK	岡内	0	鬼頭	0
GK	橘	0	佐藤	0
FP	山下	0	草川	1
FP	藤野	2	岡部	7
FP	藤川	4	堀	0
FP	東原	2	大西	0
FP	赤松	1	今瀬	0
FP	吉田	3	竹岸	5
FP	鎌田	3	小牧	0
FP	真野	0	塚原	1
FP			井上	10
FP			木下	1
PT		(1)		(2)
		15		25

（審・辻・茨木）

育英（兵庫）20〔11—7 9—12〕19 岩陽（山口）

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも固さがとれず、イージーミスが続いたが、10分過ぎから育英・松原のシュートが決まり出し、20分までに5得点を決めた。一方岩陽も中辻のサイドなどで得点するが結局及ばず、前半は11—7と育英リードで折り返す。

後半、岩陽はスピードあふれるプレーで育英のディフェンスをゆさぶり、8分には同点に追いついた。しかし、育英も粘りをみせ、岩陽をふり切り勝利をものにした。

	〔岩陽〕	得	〔育英〕	得
GK	山田	0	有田	0
GK	三牧	0	清水	0
FP	浜中	1	井村	4
FP	中辻	8	南口	0
FP	河合	0	泉	5
FP	村上	0	松原	9
FP	田中	0	枇榔	0
FP	田村	6	紀	0
FP	藤谷	1	森岡	0
FP	中村	1	岩本	0
FP	藤井	2	横山	2
FP	森田	0	土肥	0
PT		(0)		(3)
		19		20

（審・中本・福田）

小松明峰（石川）21〔8—6 13—12〕18 函館有斗（北海道）

〔戦評〕立ち上がり、厳しいディフェンスからリズムをつかんだ有斗は速攻とロングで先行したが、明峰も相手チームの退場を機にジワジワと加点し、一進一退のゲーム展開となる。前半終了2分前、明峰は北橋のカットイン、速攻で連続得点し8—6で前半を終る。

後半に入っても明峰は北橋を中心とした組み立てでペースを握る。有斗もよく粘るが雑なプレーが多く、荒れを変えられなかった。

	〔有斗〕	得	〔明峰〕	得
GK	松	0	藤島	0
GK	越崎	0	長谷	0
FP	伊藤	2	石井	2
FP	澤村	0	北橋	11
FP	大谷	0	村本	2
FP	山崎	1	金森	0
FP	三橋	0	藤多	0
FP	中島	5	菊谷	0
FP	駒野	6	大壁	2
FP	岩崎	0	二木	2
FP	宮田	1	魚川	2
FP	和泉	3	中村	0
PT		(2)		(3)
		18		21

（審・細沢・若田）

尾道（広島）21〔9—8 12—8〕16 釧路湖陵（北海道）

湖陵	得		尾道	得
清水	0	GK	岡田	0
山本	0	GK	島本	0
斉藤	1	FP	王野	4
大西	1	FP	渡辺	2
手塚	8	FP	迫田	0
諏訪	0	FP	神田	5
小林	0	FP	大平	9
佐野	0	FP	竹国	1
下川原	0	FP	柏原	0
石川	4	FP	黒川	0
西村	1	FP	半田	0
富樫	1	FP	山田	0
(1)	16	PT	(2)	21

〔審・能坂、井上〕

〔戦評〕尾道は速攻を中心に加点、一方釧路湖陵は手塚のロングシュートを中心に得点、前半は互角で終了。後半、両チームとも特徴を出し切り、互角にゲーム展開するも、尾道のシュートにやや確実性があり、尾道が勝利を握る。

両チームとも高校生らしいきびきびしたゲーム展開を見せてくれた。

桃山学院 23 〔11—6, 12—11〕 17 中京
（大阪）　（愛知）

〔戦評〕両チームとも激しいディフェンスで前半途中まではロースコアの展開であったが、中京に攻撃のミスが多く、その機をついた桃山学院がポストをからめて着々と得点していった。

追う中京は、後半、桃山に退場者が出る間にスピーディな攻撃で必死に粘るが、なかなか点差は縮まらず涙を飲んだ。

両チームとも気迫のこもった攻守で観客の目を楽しませたが、特に目立ったのは、桃山GK吉田の好守でノーマークシュートを次々とはじき飛ばす姿は圧巻であった。

中京は、追い上げムードが高まってきた時の主砲・垂見の故障退場が痛かった。

中京商	得		桃山	得
中野	1	GK	吉田	0
日比野	0	GK		
嘉田	3	FP	庄司	1
中村	4	FP	中野	3
光田	4	FP	芝本	6
広田	0	FP	深江	10
山田	2	FP	松下	0
垂見	0	FP	池田	2
田口	1	FP	藤井	0
近藤	0	FP	鴨谷	1
吉澤	1	FP		
中井	1	FP		
(1)	17	PT	(1)	23

〔審・上久保、北井〕

小禄 20 〔7—9, 13—7〕 16 聖光学院
（沖縄）　（福島）

〔戦評〕立ち上がり10分までは両チームとも一進一退の展開であったが、10分過ぎから聖光学院GK田中がノーマークシュートを連続シャットアウトし、攻撃にもリズムが出てきた。結局、前半は9—7の聖光リードで折り返した。

後半に入り、小禄もやっと攻守がかみ合い、15分に同点とし、それ以後は着実に得点を重ね、20—16で勝利を手中にした。

聖光	得		小禄	得
田中	0	GK	長嶺	0
熊坂	0	GK	高良	0
藤原	6	FP	當間	1
佐藤	4	FP	島袋	3
菅野	1	FP	仲里	4
八巻	1	FP	奥間	5
斉藤	2	FP	山城	1
安彦	1	FP	中村	3
柏倉	1	FP	照屋史	0
渡辺	0	FP	山城	0
金子	0	FP	高良	0
小幡	0	FP	照屋保	3
(2)	16	PT	(1)	20

〔審・杉本、浅野〕

氷見 21 〔10—9, 11—11〕 20 瓊浦
（富山）　（長崎）

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも激しい動きの攻防を展開する。4分過ぎから氷見が速攻とペナルティで3点連取。対する瓊浦も15分過ぎから反撃し、1点差まで追いすがって前半を終る。

後半に入ると氷見が積極的な攻防で着実に加点し、6分過ぎまでに5点差とする。対する瓊浦も速攻を中心に反撃し、残り1分を切っての勝負となる。最後は攻守とも粘りのある氷見が1点差を守り逃げ切った。

瓊浦	得		氷見	得
奈須	0	GK	浜元	0
坂田	0	GK	室田	0
大野	0	FP	飯山	5
梅田	0	FP	新井	1
永谷	0	FP	柿谷	8
岩永	0	FP	田中	5
豊増	8	FP	東軒	0
満井	3	FP	五十里	0
倉田	1	FP	千場	0
山口	4	FP	桶家	0
米倉	2	FP	江幡	2
藤田	2	FP	小路	0
(0)	20	PT	(1)	21

〔審・杉本、浅野〕

市川 22 〔11—8, 11—7〕 15 桑名
（千葉）　（三重）

〔戦評〕試合開始から桑名は速攻などにより3—0とリードした。一方市川は、相手のミスを利用し10分には4—4と追いついた。両チームとも一進一退が続いたが、桑名に退場者が出て、市川が15分に8—5とリードした。結局、前半は11—8で折り返した。

後半に入り、桑名・蛭川の連続シュート、GK古賀の好守により10分には14—13と逆転した。しかし、15分には市川・佐藤らの速攻により再び15—14と逆転し、さらにマンツーマン・ディフェンスが冴え、22—15と差を広げて逃げ切った。

桑名	得		市川	得
古賀	0	GK	小林	0
岡田	0	GK	浜松	0
梅山	3	FP	中野	4
水谷	0	FP	坂井	1
加藤	2	FP	佐藤	6
山本	0	FP	中井	1
岩本	1	FP	戸崎	1
本田	1	FP	塚越	4
越智	0	FP	吉橋	4
蛭川	8	FP	川上	1
三輪	0	FP	武井	0
江頭	0	FP	太田	0
(0)	15	PT	(3)	22

〔審・上久保、北井〕

▼2回戦

岡崎城西 23 〔12—5, 11—8〕 13 麻生
（愛知）

〔戦評〕立ち上がりシュートミスの目立つ麻生に対し、岡崎城西は開始早々速い攻撃で4点を連取、その後も左の大砲・丹羽のロング、小川、小野らの速攻で着実に加点、前半を12—5で折り返す。

後半に入っても城西の勢いはとどまらず、麻生も必死で食い下がるが、横山の鋭いロングも、ボール一つ押さえがきかず、城西の守りの要、関に阻まれる。終始主導権を握った城西が試合をものにし

た。

得	岡崎		麻生	得
0	関	GK	荒野	0
0	堀木	GK	箕輪	0
3	山内	FP	小林	3
0	井方	FP	宮内	4
4	江守	FP	横山	1
2	金子	FP	小貫	5
3	丹羽	FP	羽生	0
4	小川	FP	塙	0
0	山ノ内	FP	松澤	0
5	小野	FP	小澤	0
2	石田	FP	山田	0
0	倉本	FP		
23	(1)	PT	(1)	13

（審・井上 能波）

熊本市商 22 〔9−8 13−9〕 17 県岐阜商

〔戦評〕熊本市商は岩本を中心にゲーム展開、県岐阜商は相手ミスに乗じてうまく得点し、前半は接戦で折り返す。
後半、熊本市商はディフェンスの高さを生かし、県岐阜商が攻めあぐむすきをついて速攻で着々と得点をあげる。さらに、エース岩本を中心によく守り、サイド鶴田のスピードある速攻で県岐阜商を突き放した。

得	熊商		岐阜商	得
0	荒木	GK	鬼頭	0
0	東	GK	佐藤	0
7	鶴田	FP	草川	4
0	宮本	FP	岡部	2
1	赤星	FP	堀	0
1	門口	FP	大西	0
0	内田	FP	今瀬	1
7	岩本	FP	竹岸	3
1	渡辺	FP	小牧	0
2	平田	FP	塚原	1
2	松尾	FP	井上	3
1	梅井	FP	木下	3
22	(4)	PT	(0)	17

（審・夏目 松ヶ谷）

浦和実 (埼玉) 27 〔16−10 11−9〕 19 育英

〔戦評〕前半、立ち上がりの10分浦和実が相手のミスからの速攻もあって6−1と突き放し、主導権を握るかに見えた。しかしその後、速い展開からポスト、サイド、ロングと多彩に打ちまくる浦和実、それに対し松原のロングを軸に攻める育英と両者持ち味を出し、互角にわたり合い、結局16−10と浦和実のリードで前半を折り返す。
後半、育英は一時3点差まで詰め寄るが、この日12得点の阿部を中心に総合力に勝った浦和実が、前半のリードを生かし27−19で2回戦を突破した。

得	浦和実		育英	得
0	浅見	GK	有田	0
0	矢作	GK	清水	0
1	幸田	FP	井村	5
3	矢田部	FP	南口	0
6	谷口	FP	泉	1
2	今野	FP	松原	8
2	高野	FP	枇榔	0
0	羽田	FP	紀	2
12	阿部	FP	森岡	1
0	安藤	FP	岩本	0
1	永山	FP	横山	2
0	笹井	FP	土肥	0
27	(0)	PT	(3)	19

（審・川島 森）

明星 (東京) 18 〔7−10 11−5〕 15 小松明峰

〔戦評〕立ち上がり10分までは両チームとも固さがとれず、一進一退で展開されたが、10分を過ぎて小松明峰はスピーディな流れからカットイン、サイドなどで攻撃の幅を広げ、試合を有利に進めた。前半は10−7と小松明峰リードで折り返した。
後半は、前半とは逆に明星が自分のペースをつかみ、徐々に得点を重ね、20分には同点とし、同点としてからは勢いに乗る明星が勝利を手にした。

得	明星		明峰	得
0	守随	GK	藤島	0
0	宍戸	GK	長谷	0
0	倉持	FP	石井	0
2	三浦	FP	北橋	5
0	井出	FP	村本	6
4	前田	FP	金森	0
0	種茂	FP	藤多	0
6	五島	FP	菊谷	0
3	遠藤	FP	大壁	3
2	金井	FP	二木	0
1	田代	FP	魚川	1
0	野島	FP	中村	0
18	(1)	PT	(2)	15

（審・上久保 北井）

新居浜工 (愛媛) 14 〔8−3 6−9〕 12 尾道

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームとも攻撃に決定力を欠き、10分過ぎまで1対1のロースコアーであった。しかし、新居浜工は長身を生かしたロングシュートが徐々に決まり出し、前半を5点リードで終了した。
後半に入って、新居浜工は前半のリードで気がややゆるみ、シュートが雑になった。尾道はそのスキに速攻、ポストプレーなどで得点を重ね、3点差まで追い上げたが15分過ぎからは一進一退の展開となり、新居浜工が前半のリードを生かして最後は逃げ切った。

得	新居浜		尾道	得
0	滝本	GK	岡田	0
0	近藤	GK	島本	0
2	丸川	FP	王野	4
0	平井	FP	渡辺	1
0	澤田	FP	迫田	2
1	新名	FP	神田	3
2	伊東	FP	大平	0
5	神野	FP	竹国	2
4	大西	FP	柏原	0
0	白石	FP	黒川	0
0	源代	FP	半田	0
0	池浦	FP	山田	0
14	(1)	PT	(1)	12

（審・楓 渡辺）

横浜商工 (神奈川) 20 〔10−5 10−13〕 18 桃山学院

〔戦評〕前半は、巧妙なパスプレーの横浜商工に対し、防戦一方の桃山学院は終始リズムを崩されるゲーム展開となった。桃山学院は2度の退場が影響、決め手を欠く試合となる。
後半に入っても、横浜商工は優位に展開し、今一歩桃山学院は追いつくことができなかった。残り5分、桃山学院の反撃も及ばず、ゲーム終了となる。

得	横浜商		桃山	得
0	野口	GK	吉田	0
0	金丸	GK		
2	小川	FP	庄司	0
8	田中	FP	中野	3
0	松澤	FP	芝本	9
0	吉岡	FP	深江	5
3	小沢	FP	松下	0
0	山本	FP	池田	1
0	熊倉	FP	藤井	0
1	小林	FP	鴨谷	0
3	大浦	FP		
0	石川	FP		
20	(3)	PT	(4)	18

（審・夏目 松ヶ谷）

小禄 18 〔9−9 9−7〕 16 市川

〔戦評〕攻守ともにバランスのとれたチーム同士の争いは小禄が先行、市川が追いかける展開となり9−9の同点で前半を終了。
後半に入っても、ともによく走り、スピードに乗った一進一退の

好ゲームとなった。10分過ぎ、ディフェンスの甘くなった市川のスキをついて小禄がたて続けに得点し、リードを広げた。両チームともコンビネーションを生かしたゲームをしたが、シュート力に勝る小禄がゲームをものにした。

	〔市川〕	得	〔小禄〕	得
GK	小林	0	長嶺	0
GK	浜松	0	高良武	0
FP	中野	0	當間	1
FP	坂井	0	島袋	4
FP	佐藤	5	仲里	5
FP	中井	1	奥間	4
FP	戸崎	0	山城	0
FP	塚越	5	中村	2
FP	吉崎	3	照屋史	0
FP	川上	0	山城	0
FP	武井	2	高良尚	0
FP	太田	0	照屋保	2
		16		18
PT		(1)		(0)

（審・中本 福田）

氷見20 〔10—7、10—8〕 15 桂（京都）

〔戦評〕両チームとも立ち上がり互角のスタート。ゲームの流れをどちらがとるか一進一退の攻防が続いたが、フェイントで勝る氷見がリードして前半を終了。

後半に入り、桂は1対1のフェイントでディフェンスを崩し、追い上げたが、疲れの見えた桂を速攻で引き離した氷見の勝利。

小兵ぞろいの桂であったが、GKを中心によくまとまったチームで善戦した。

	〔桂〕	得	〔氷見〕	得
GK	福井	0	浜元	0
GK	西澤	0	室田	0
FP	波多野	3	飯山	7
FP	杉本	1	新井	3
FP	林	0	柿谷	5
FP	滝澤	4	田中	2
FP	栃岡	0	東軒	0
FP	森川達	0	五十里	1
FP	片山	3	千場	0
FP	岩本	3	桶家	0
FP	森川崇	1	江幡	2
FP	友田	0	小路	0
		15		20
PT		(3)		(2)

（審・細沢 若田）

▼3回戦

熊本市商21 〔9—10、12—5〕 15 岡崎城西

〔戦評〕立ち上がり、岡崎城西はロング、ポストシュートを決め、リズムに乗った。しかし、熊本市商も反撃一時同点とした。しかし、試合の主導権をもつ岡崎城西は丹羽のロングシュートを中心に加点し、前半を1点リードで終了。

後半、一進一退のゲーム展開が続いたが、13分過ぎ熊本市商はペナルティー、サイドシュートで2点リードした。その後も熊本市商はリズムに乗り、速攻などで連続加点した。決め手に欠けた岡崎城西は敗退した。

	〔城西〕	得	〔熊本商〕	得
GK	関	0	荒木	0
GK	堀本	0	東	0
FP	山内	3	鶴田	4
FP	井方	0	宮本	0
FP	江守	1	赤星	0
FP	金子	0	門口	1
FP	丹羽	4	内田	0
FP	小川	2	岩本	8
FP	山ノ内	0	渡辺	1
FP	小野	4	平田	2
FP	石田	1	松尾	2
FP	倉本	0	梅井	3
		15		21
PT		(0)		(2)

（審・能波 井上）

明星17 〔8—6、9—8〕 14 浦和実

〔戦評〕まず先手を取ったのは、浦和実・阿部のステップシュート、すかさず明星は遠藤のロングシュートで取り返し、両チームともに個人技を中心に展開するも、やや浦和実にミスが目立ち、前半を8—6と明星リードで終了した。

後半に入ると、明星は多彩な攻撃で得点を重ね、よく持ち味を出し終始リード、終盤浦和実も意地を出し、連続3得点をあげたが時すでに遅く、結局17—14で明星が勝利を収めた。

	〔浦和実〕	得	〔明星〕	得
GK	浅見	0	守随	0
GK	矢作	0	宍戸	0
FP	幸田	0	倉本	0
FP	矢田部	3	三浦	2
FP	谷口	4	井出	1
FP	今野	3	前田	5
FP	高野	0	種茂	0
FP	羽田	0	五島	5
FP	阿部	2	遠藤	3
FP	安藤	1	金井	1
FP	永山	1	田代	0
FP	笹井	0	野島	0
		14		17
PT		(0)		(3)

（審・楓 渡辺）

2回戦の横浜商工対桃山学院の桃山の追撃も及ばず。

横浜商工20 〔11—9、9—7〕 16 新居浜工

〔戦評〕前半、新居浜工のペースで始まった。新居浜工はディフェンスを引き気味にし、横浜商工の独得のパスワークに対応した。横浜は立ち上がりからリードを許したが、小沢のロングシュートを多用し、10分には同点に追いつき、一進一退の攻防が続いた。

後半に入っても横浜は新居浜の引き気味のディフェンスに手こずり、いつもスピードのある展開ができなかった。また、小沢のロングシュートが決まらず、13分には同点に追いつかれた。しかし、小川の3連続得点によって横浜がふり切って勝った。

新居浜工もセット攻撃に工夫が

あれば勝機があったように思う。

新居浜	得		横浜商	得
滝本	0	GK	野口	0
近藤	0	GK	金丸	0
丸川	0	FP	小川	7
平井	0	FP	田中	2
澤田	0	FP	松澤	0
新名	0	FP	吉岡	1
伊東	4	FP	小沢	8
神野	8	FP	山本	0
大西	4	FP	熊倉	1
白石	0	FP	小林	0
源代	0	FP	大浦	1
池浦	0	FP	石川	0
(1)	16	PT	(2)	20

（審・岩本 板倉）

小禄18（8－8、10－6）14氷見

〔戦評〕接触プレーをいとわないチーム同士とあって激しい攻防が見られた。ハーフタイムをはさんで一時は小禄のFP3人というパワプレーのチャンスに氷見は得点できず、逆に1点とられてしまった。これを境に小禄は波に乗り、奥間のポストシュート、島袋のロングで点差を開き逃げ切った。

氷見も柿谷のロングで追い上げたものの、それ以外に決め手がなかった。

氷見	得		小禄	得
浜元	0	GK	長嶺	0
室田	0	GK	高良武	0
飯山	1	FP	當間	1
新井	1	FP	島袋	6
柿谷	10	FP	仲里	2
田中	0	FP	奥間	7
東軒	0	FP	山城仁	0
五十里	2	FP	中村	1
千場	0	FP	照屋史	0
桶家	0	FP	山城年	0
江幡	0	FP	高良尚	0
小路	0	FP	照屋保	1
(2)	14	PT	(1)	18

（審・川島 森）

▼準決勝

明星23（8－13、10－5、3－0、2－2）20熊本市商

〔戦評〕開始早々、明星は警告、PTを受け、苦しい立ち上がりを強いられる。熊本市商の両サイドをつく厳しい攻めに、明星は守り攻めともにリズムを崩し加点を許す。

後半に入り、明星は必死の追い上げを見せ、三浦の速攻の得点により押せ押せムードが続き、終了2分前に同点に追いつく。延長戦に入っても明星の勢いはとどまらず、前半の5点差をひっくり返して延長戦に臨んだ明星が勝利を得た。

熊本商	得		明星	得
荒木	0	GK	守随	0
東	0	GK	宍戸	0
鶴田	6	FP	倉持	0
宮本	0	FP	三浦	4
赤星	0	FP	井出	0
門口	3	FP	前田	0
内田	0	FP	種茂	0
岩本	6	FP	五島	6
渡辺	0	FP	遠藤	6
平田	3	FP	金井	2
松尾	0	FP	田代	5
梅井	2	FP	野島	0
(1)	20	PT	(0)	23

（審・辻 茨木）

横浜商工21（8－10、13－10）20小禄

〔戦評〕決勝をかけての死闘を展開した。立ち上がりは小禄のペース。速攻、ロングシュートで着実に得点を重ね、横浜商工を引き離す展開となる。しかし、10分頃になると横浜商工も反撃するが、追いつくことができないまま前半を終了する。

後半は両チームとも勢いを増すばかりの好ゲーム展開となる。残り1分30秒で同点。横浜商工は2人の退場者を出すが、逆に士気を高め、執念の得点を取り、決勝へコマを進める。素晴らしい一戦であった。

小禄	得		横浜商	得
長嶺	0	GK	野口	0
高良武	0	GK	金丸	0
當間	3	FP	小川	9
島袋	9	FP	田中	5
仲里	1	FP	松澤	0
奥間	4	FP	吉岡	0
山城仁	0	FP	小沢	3
中村	0	FP	山本	0
照屋史	0	FP	熊倉	0
山城年	0	FP	小林	3
高良尚	0	FP	大浦	1
照屋保	3	FP	石川	0
(1)	20	PT	(2)	21

（審・上久保 北井）

▼決勝

横浜商工26（12－8、14－7）15明星

〔戦評〕男子決勝は、東京代表明星と神奈川代表横浜商工と関東勢同士の闘いとなった。横浜商工のスローオフで始まったこの試合は、立ち上がりから横浜商工の動きがよく、速い攻撃から得点を重ねた。一方、明星は相手の堅い守りに苦しんだが、10分をすぎるあたりから相手のミスにつけ込み連続3点を決めるなど追い上げムード、前半は立ち上がり10分間の差で12－8と横浜商工リードで終了。後半に入ると横浜商工は、小川、田中の活躍で徐々に点差は開き、GK野口の好守もひかりやや一方的な展開となり、結局総合力に勝る横浜商工が26－15で勝利をおさめた。

明星	得		横浜商	得
守随	0	GK	野口	0
宍戸	0	GK	金丸	0
倉持	0	FP	小川	9
三浦	1	FP	田中	6
井出	0	FP	松澤	1
前田	1	FP	吉岡	0
種茂	0	FP	小沢	5
五島	7	FP	山本	0
遠藤	0	FP	熊倉	1
金井	4	FP	小林	1
田代	2	FP	大浦	3
野島	0	FP	石川	0
(3)	15	PT	(1)	26

（審・川島 森）

女子

▼1回戦

山陽女（広島）33〔19—4　14—7〕11 釧路商（北海道）

〔戦評〕先に攻撃のリズムをつかんだ山陽女は、フリースローからポストに入れ先取点をとった。その後もスピードに勝る山陽女は着実に加点した。釧路商は山陽女の堅いディフェンスに苦戦した。後半に入っても、山陽女のリズミカルなプレーは続き、速攻、サイド、ロングと多彩な攻撃で加点した。一方、釧路商は吉川を中心にポストプレーで加点するが、山陽女のスピードについていけなかった。

得	〔山陽〕		〔釧路商〕	得
0	森貞	GK	平野	0
0	久保		端	0
2	土師	FP	今井	5
3	飯田		吉川	1
4	小原		浜道	1
6	長久	（審・川島 森）	上田	4
0	許田		早坂	0
9	大山		高橋	0
7	山中		弘中	0
0	南		遠山	0
2	山田		五十嵐	0
0	横田		船場	0
33	(5)	PT	(1)	11

昭和学院（千葉）16〔8—5　5—8　2—2　1—0〕15 佐賀関（大分）

〔戦評〕第1試合いきなりの延長戦となった。決勝点は昭和・鳥海のカットインシュート。その後佐賀関・高浪のPTを石田が止めて万事休した。前半から後半にかけて退場のすきに昭和が2得点して4点差とし引き離すかにみえたが、ここから佐賀関は高浪、吉永らの5連続速攻で後半10分一時は逆転に成功。しかし昭和も斉藤のPT、ロングでかえし、延長戦に入り以上のような結果となった。昭和はポストをつぶされると決め手がなく、佐賀関の果敢な動きに苦戦した。

得	〔昭和〕		〔佐賀関〕	得
0	石田	GK	丸尾	0
			太田	0
3	鳥海	FP	高浪	7
0	唐沢		山口	0
0	村越		野中	1
0	時田	（審・福田 中本）	狭間	0
0	小野		田村	0
2	竹田		祖田	3
2	阿部		大本	0
2	山崎		藤竿	0
1	山田		吉永	4
6	斉藤		平松	0
16	(3)	PT	(1)	15

高岡南（富山）16〔7—5　8—10　1—0　0—1〕16 清水西（静岡）
2 PTC 1

〔戦評〕前半は清水西の速攻、高岡商のポスト、ミドルで得点し、後半の開始5分間に清水西は、相手のパスミスから得意の速攻で逆転し、わずかながら終始リードする。高岡商、ロングシュートがきまらず苦しい展開ながら、粘って終了直前同点のステップシュートが決まり延長戦となる。延長戦は、両チームともよく走り互いに1点ずつ得点しPTCにもつれこんだ。両チームともややパスミスが目立ったが、最後までよく走り、守った。

得	〔高岡商〕		〔清水西〕	得
0	和田	GK	坂本	0
0	新谷		斉藤	0
5	島	FP	上倉	1
1	島谷		月見里	8
2	藤井		杉山	2
2	矢田部	（審・川島 森）	一ノ宮	0
0	荒崎		畑口	2
4	島木		清水	3
2	長森		望月	0
0	佐竹		竹澤	0
0	笠島		大畑	0
0	若野		青木	0
16	(2)	PT	(1)	16

聖和学園（宮城）17〔5—8　8—5　1—0　3—0〕13 今治南（愛媛）

〔戦評〕前半、10分過ぎまであせりと硬さの為か、ロースコアーのゲーム展開となる。先にペースをつかんだ今治南は、速攻、カットインなどで得点を重ねた。しかし、聖和学園は残り5分で必至の追い上げを見せ、このムードが後半の10分過ぎには、1点差まで追い上げる勢いとなる。残り3分に今治南の痛い退場が続き、ついには同点になり、延長戦となる。延長戦では、聖和学園の勢いが持続し、手堅い勝利となる。

得	〔聖和〕		〔今治南〕	得
0	今野	GK	鎌田	0
0	伊藤		鳥生	0
1	片倉	FP	山崎	3
2	大友		苅田	0
1	大沼		渡部和	4
6	鈴木	（審・渡辺 楓）	八木	1
0	宍戸		大澤	2
5	大森		木村	0
0	加藤		渡部信	3
0	藤原		秋山	0
2	佐藤里		森	0
0	佐藤裕		高田	0
17	(1)	PT	(4)	13

読谷（沖縄）22〔12—6　10—8〕14 添上（奈良）

〔戦評〕立ち上がり、両チームともミスが多くロースコアのゲーム展開となった。前半5分過ぎから読谷は、當山のロング、宇栄原のポストを中心に、一方添上は、掛本のロング、速攻を中心に攻撃を組み立て一進一退の攻防が続いた。前半は12—6の読谷リードで終了。後半に入り、添上は持ち前の足を使っての攻撃で追撃しペースをつかみかけるが、読谷・比嘉の巧みなプレーにはばまれ逆転することができなかった。

得	〔読谷〕		〔添上〕	得
0	天久	GK	開田	0
0	謝名堂			
1	松田	FP	檜垣	4
0	比嘉さ		掛本	4
0	富有		坂垣	2
1	我謝	（審・夏目 松ヶ谷）	松池	3
0	屋良		辰巳	1
5	當山		嶋田	0
9	比嘉由		国分	0
3	大城			
0	新垣			
3	宇栄原			
22	(2)	PT	(2)	14

宣真（大阪）13〔4—2　9—5〕7 暁（三重）

〔戦評〕前半、暁のスローオフで始まったが、攻守とも似かよった力の両チームは、お互いの堅いディフェンスをくずすことができずロースコアの展開となり、18分すぎ暁の退場をきっかけにした宣真が、わずかに4—2とリードし前半を終了した。後半、開始直後暁も4—4の同点に追いついたが、宣真は相手のミスを速い攻撃につなげ、徐々の点差をひろげていった。暁も、主将・左腕の中根を中心に応戦するが、全体的に走力、シュート力でわずかに勝る宣真が13—7と勝利を手にした。

得	〔宣真〕		〔暁〕	得
0	西住	GK	高橋	0
0	辻			
0	日野	FP	戸羽	0
1	三橋		中川	1
1	嶋田		江川	0
2	福西	（審・岸本 板倉）	小崎	0
4	中尾		伊藤	0
0	中村		小林	0
0	越智		永峰	0
3	岸本		西本	3
0	中井		中根	3
2	田代			
13	(1)	PT	(0)	7

名短付（愛知）45〔22—6　23—5〕11 高松商（香川）

〔戦評〕立ち上がりこそ一進一退であったが、5分を過ぎるとスピードに勝る名短が徐々に点差を広げ、22—6で前半を終了した。サイドの変った後半も、名短両サイ

ドの速攻が確実に決まり一方的な試合になった。スピードに圧倒された高松商は持ち味を発揮できず残念であった。

得	〔名短付〕		〔高松商〕	得
0	徳永	GK	滝井	0
0	柴田	GK	木村	0
4	陰	FP	溝渕	0
4	国枝	FP	楠	3
14	八田	FP	吉田	1
2	上島	FP	河野	1
0	友田	FP	畠山	0
2	近藤	FP	平田	0
0	宮川	FP	多田	2
13	飯田	FP	宇田	0
4	塩田	FP	小川	4
2	合田	FP		
45	(4)	PT	(1)	11

〔審・古橋 阿部羅〕

岩国商（山口）**14**〔7―8、7―4〕**12 彦根商**（滋賀）

〔戦評〕フリースローからロングシュートを放つ岩国商に対し、彦根商はディフェンスで粘りを見せる。その粘りが攻撃につながらず、浮き足立ちミスが多く出てしまう結果となる。前半も15過ぎになると活発なゲーム展開で終了する。後半に入り、岩国商は、彦根商GKの好守に阻まれ、20分まで一進一退のゲーム展開となる。後半に入っても粘りを見せた岩国商が逆転し勝利を手中にする。

得	〔岩国商〕		〔彦根商〕	得
0	河原	GK	圓城	0
0	岡山	GK	棚池	0
5	吉田	FP	矢野	3
4	善本	FP	山田	0
1	上村	FP	嶋佐	2
0	清水	FP	安居	0
1	佐藤	FP	越智	3
0	福永	FP	間柴	0
0	浜田	FP	出口	1
6	藤田	FP	吉本	3
0	松原	FP	松山	0
0	松林	FP	井出	0
14	(1)	PT	(0)	12

〔審・板倉 岩本〕

熊本女商（熊本）**21**〔11―7、10―8〕**15 郡山女**（福島）

〔戦評〕前半、立ち上がりは両GKの好守にはばまれ、攻守がめまぐるしく入れ替る早い展開となった。スローオフ5分経過、先取点争いは松村の速攻で熊本女に軍配が上がる。その後も熊本女は、常にゴールを狙う積極的なプレーで着々と得点を重ねた。後半に入ると、やや歯車のかち合わない熊本女のスキをついて伴野、橋本らの速攻、ポストプレーで必死にくいさがるが、早いパス回しからの果敢な攻撃で勝る熊本に一歩及ばなかった。

得	〔熊本女〕		〔郡山女〕	得
0	城下	GK	鈴木	0
		GK	柳沼	0
0	斉藤	FP	菅野	0
6	松村	FP	伊藤	0
9	松井	FP	山城	0
2	橋本	FP	七見	1
1	栗林	FP	伴野	5
2	杉本恵	FP	橋本	2
1	高洲	FP	青池	2
0	杉本ひ	FP	渡辺律	0
0	高橋	FP	渡辺雪	1
0	河野	FP	松立	4
21	(2)	PT	(3)	15

〔審・細沢 若田〕

小松商（石川）**24**〔14―4、10―9〕**13 明倫**（神奈川）

〔戦評〕小松商の堂々たる試合運びだった。先発FP全員得点の偏りのない攻撃力に加え、GK馬場の安定したゴールキーピングが光った。明倫は後半、小松商高田にマンツーマンディフェンスをしき田代の速攻、PT等で追い上げたが、小松商の速攻は止められなかった。小松商の今後の課題は、のべ5人が退場となってしまったセットディフェンスと見えた。

得	〔小松商〕		〔明倫〕	得
0	北村	GK	春田	0
0	馬場	GK		
4	高田	FP	藤田	1
1	清水	FP	広瀬	3
0	鈴木	FP	田代	7
4	吉田	FP	鈴木明	0
1	長谷川	FP	鈴木孝	0
5	谷下	FP	竹谷	0
6	松下	FP	徳島	2
3	石村	FP	榑松	0
0	若本	FP		
0	畠中	FP		
24	(2)	PT	(4)	13

〔審・楓 渡辺〕

▼2回戦

鈴蘭台（兵庫）**18**〔7―4、11―11〕**15 山陽女**

〔戦評〕試合開始早々鈴蘭台は、ポストプレーで先行する。一方、山陽女も速攻で対抗する。ディフェンスでリズムをつかんだ鈴蘭台は、ポスト、ロングでリードを奪い前半を7―4で終了する。後半に入っても、山陽女の攻撃は展開力に欠け、鈴蘭台の堅いディフェンスを破ることができず苦しむが、15分には大山のロングなどで2点差まで追撃しよく粘る。しかし、鈴蘭台は勝島の絶妙のリードで常にペースを握り、山陽女の粘りを振りはらった。

得	〔鈴蘭台〕		〔山陽女〕	得
0	田中	GK	森貞	0
0	吉永	GK	久保	0
0	糀谷	FP	土師	1
9	勝島	FP	飯田	0
7	柿並	FP	小原	0
1	山田	FP	長久	4
1	野崎	FP	許田	0
0	水田	FP	大山	10
0	小面	FP	山中	0
0	城	FP	南	0
0	岩田	FP	山田	0
0	岸本	FP	横田	0
18	(2)	PT	(4)	15

〔審・川島 森〕

昭和学院 23〔11―4、12―4〕**8 高岡商**

〔戦評〕昭和は速攻、サイド、ポストと確実にシュートを決め得点、高岡商は立ち上がりノーマークシュートをミスし苦しいスタート、後半に入り、昭和ペースで試合を運び着実に得点を重ねた。高岡商は、攻守にあせりがみられミスが目立ち最後までペースに乗れなかった。昭和GKの美技が目立った試合であった。

得	〔昭和〕		〔高岡商〕	得
0	石田	GK	和田	0
		GK	新谷	0
6	鳥海	FP	島	4
0	唐沢	FP	島谷	0
0	村越	FP	藤井	1
0	時田	FP	矢田部	1
0	小野	FP	荒崎	0
0	竹田	FP	島木	2
6	阿部	FP	長森	0
2	山崎	FP	佐竹	0
4	山田	FP	笠島	0
5	斉藤	FP	若野	0
23	(3)	PT	(2)	8

〔審・上久保 北井〕

大海女（愛知）**22**〔8―7、14―10〕**17 聖和学園**

〔戦評〕前半、立ち上がりから両チームとも攻撃のリズムがつかめず、パスミス、キャッチミスやオーバーステップが多く、シュート

チャンスをつくれないまま攻撃が終ってしまうケースばかりであった。両チームの得点は個人技によるものが殆んどであった。後半、聖和はロングを多用、東海女は山田を中心の攻撃になった。聖和の防御に甘さが目立ち、東海女・山田に簡単に得点されるようになり、山田に注意しすぎ、吉本に得点されてしまうケースが多くなった。10分から20分の間東海女に退場者が続出し、聖和ペースになったが、攻撃に疲れが見え始め、20分に2点差までつめ寄ったがもうひと押しできなかった。

〔聖和〕	得		得	〔東海女〕
今野	0	GK	0	河合
伊藤	0		0	小柳
片倉	3	FP	3	大橋
大友	2		9	山田
大沼	1		0	中西
鈴木	4		0	武藤
宍戸	0		1	三好
大森	3		8	吉本
加藤	0		1	久米
藤原	0			
佐藤里	4			
佐藤裕	0			
17	(3)	PT	(2)	22

（審・古橋　阿部羅）

読谷 16 〔4－6, 10－8, 2－1, 0－1, PTC 6－5〕 16 佼成学園女（東京）

〔戦評〕前半は、ディフェンスで粘りを見せる読谷に対しシュートを放つが、GKの好守に阻まれ、今ひとつリズムに乗り切れない佼成学園の戦いとなる。しかし、後半では読谷の必死の攻撃で一進一退の試合となる。残り10秒で最後の反撃を見せ、遂に同点とし延長戦にもつれ込む。この戦いが延長戦にも持続しPTCの結果待ちとなる。追い上げムード読谷が、PTCでも勢いにのり執念で勝利をものにする。熱戦で素晴しい試合であった。

〔佼成〕	得		得	〔読谷〕
戸塚	0	GK	0	天久
益子	0		0	謝名栄
高橋	4	FP	0	松田
坂本	2		0	比嘉さ
執印	5		0	冨着
村田	2		1	我謝
中澤	0		0	屋良
桐谷	3		6	當山
平内	0		5	比嘉由
中社	0		2	大城
諸富	0		0	新垣
峯岸	0		2	宇栄原
16	(3)	PT	(4)	16

（審・茨木　辻）

宣真 21 〔10－5, 11－7〕 12 国学院栃木（栃木）

〔戦評〕立ち上がり、両チームともミスが多くリズムをつかめなかったが、先きペースをつかんだ宣真はディフェンスから速攻に結びつけリードを奪う。一方、国学院栃木は攻撃に決め手を欠き、パスミスなどにより逆襲をうけ苦しい展開となったが、前半終了前宣真は3人の退場者を出しリズムを崩し10－5と追いつかれた。後半に入って再びペースを取り戻した宣真は、ポストプレー、速攻と着実に加点し完全に主導権を握った。総合力に勝る宣真の勝利に終ったが、両チームともミスが多く今後の精神を期待したい。

〔栃木〕	得		得	〔宣真〕
佐藤	0	GK	0	西住
田中	0		0	辻
中田	2	FP	0	日野
清水	1		2	三橋
寺内	0		0	嶋田
田村	1		3	福西
古川	1		4	中尾
高橋	1		0	中村
西村	2		0	越智
新井	2		7	岸本
若林	2		1	中井
飯塚	0		4	田代
12	(2)	PT	(3)	21

（審・中本　福田）

名短付 25 〔11－7, 14－4〕 11 水海道二（茨城）

〔戦評〕水海道のきびしいディフェンスに名短が苦しみ、なかなか点をあげられないなか、水海道は小野、八十岡がロング、ペナルティーを確実に決め、水海道ペースが続いたが、水海道の小野、鈴木の退場により徐々に名短がペースを取り戻し、塩田のロングシュート、速攻などにより逆に名短がリードして前半終了。後半も勢いのついた名短は速攻などにより、着実に点をあげていったが、水海道はミスをくりかえし一方的な試合となった。

〔水海道〕	得		得	〔名短付〕
飯野	0	GK	0	徳永
吉田	0		0	柴田
小野	4	FP	2	陰
鈴木	2		7	国枝
倉持	0		1	八田
福田	0		0	上島
山本	0		0	友田
横田	0		0	近藤
八十岡	3		0	宮川
内藤	1		6	飯田
門井	1		7	塩田
古矢	0		2	合田
11	(2)	PT	(0)	25

（審・水越　上小沢）

岩国商 18 〔8－7, 10－6〕 13 熊本女商

〔戦評〕立ち上がり岩国は、ポスト、サイドシュートなどでリードするが、熊本も斉藤のロングシュートをきっかけに反撃する。前半は8－7で岩国の1点リードで終った。

後半に入ってすぐ熊本は、キャプテン松井のロングシュートで同点にする。10分過ぎ岩国はペナルティー、速攻、ロングで3点差にしてゲームの主導権を握った。一方、熊本はあせりからシュートミスが続き、逆に岩国ペースでゲームが展開され勝利を手にした。

〔熊本女〕	得		得	〔岩国商〕
城下	0	GK	0	河原
			0	岡山
斉藤	1	FP	4	吉田
松村	2		4	善本
松井	6		3	上村
橋本	1		2	清水
栗林	0		2	佐藤
杉本恵	1		0	福永
高洲	2		0	浜田
杉本ひ	0		3	藤田
高橋	0		0	松原
河野	0		0	松林
13	(1)	PT	(3)	18

（審・板倉　岩本）

小松商 34 〔17－7, 17－5〕 12 函館女商（北海道）

〔戦評〕スピードある小松商は、函館のミスから速攻により着実に得点を重ね、前半を10点リードで終了した。

後半に入っても、攻撃力の勝る小松商の一方的なゲーム運びで試合を終了した。函館商の次回の活躍を期待したい。

得	〔小松商〕		〔函館女〕	得
0	北村	GK	加藤	0
0	馬場		澤部	0
0	高田	FP	佐藤英	3
1	清水		浜口	4
0	鈴木		武田	1
2	吉田		佐藤千	2
4	長谷川		三品	0
11	谷下		中越	1
9	松下		和歌	1
6	石村		佐藤か	0
0	若本		鹿戸	0
1	畠中		和田	0
34	(5)	PT	(0)	12

〔審・杉本・浅野〕

▼3回戦

昭和学院16（8―9、5―4、1―2、2―0）**15鈴蘭台**

〔戦評〕立ち上がりから、鈴蘭台は勝島、柿並を軸に多彩な攻撃で得点を加える。このままペースを握むかと思われたが、昭和学院も持味のポストプレーに加え、斉藤のロングシュートで対抗するなど互角の戦いが展開され、前半を終了する。後半に入り、互いにミスが目立ち追加点をあげられなかったが、10分過ぎから動きはじめ一進一退の攻防が続き延長戦に入る。なおも5分の戦いが続くが、終了間際昭和学院・斉藤のロングシュートが決まり、激戦にピリオドをうった。

得	〔昭和〕		〔鈴蘭台〕	得
0	石田	GK	中田	0
			吉永	0
3	鳥海	FP	糀谷	0
0	唐沢		勝島	4
0	村越		柿並	7
0	時田		山田	3
0	小野		野寄	1
1	竹田		水田	0
1	阿部		小西	0
2	山崎		城	0
1	山田		岩田	0
8	斉藤		岸本	0
16	(2)	PT	(2)	15

〔審・中本・福田〕

読谷21（11―9、10―11）**20東海女**

〔戦評〕読谷・當山、比嘉（由）のきれ味するどいステップ、ロングシュート、東海女・山田のフェイントからのカットイン、吉本のロング、以上の4人で前半の全得点をたたき出した。後半立ち上がり、読谷の4連続速攻が決まって突き放すかに見えたが、東海女の粘りがそれを許さず、終了のホイッスルがなるまで目の離せない好ゲームとなった。東海女としては開始後4点リードの場面で、再三のラインクロスによって自滅してしまったのが痛かった。

得	〔読谷〕		〔東海女〕	得
0	天久	GK	河合	0
0	謝名堂		小柳	0
0	松田	FP	大橋	0
0	比嘉さ		山田	9
0	冨着		中西	0
1	我謝		武藤	0
0	屋良		三好	2
10	當山		吉本	9
8	比嘉由		久米	0
1	大城			
0	新垣			
1	宇栄原			
21	(3)	PT	(2)	20

〔審・阿部羅・古橋〕

名短付25（13―9、12―13）**22宣真**

〔戦評〕激戦を勝ち抜いた両チームは、互いに持ち味を発揮しスピードある展開となる。宣真のセット攻撃に対して名短付の速攻と前半15分6―6の互角。その後も一進一退の得点経過をたどり、結局前半を13―12宣真のリードで終る。後半開始直後、宣真・中尾の退場を機に名短は逆転に成功し名短ペースでゲームは進行する。11分宣真も名短・塩田の退場を生かし18―18とする。名短・陰、塩田と宣真・福西、中尾を中心とした攻防は、緊迫したすばらしいゲームとなった。終了2分前名短は、積極的な攻撃と執念で激戦を勝ち抜いた。両チームの健闘をたたえたい。

得	〔名短付〕		〔宣真〕	得
0	徳永	GK	西住	0
0	柴田		辻	0
3	陰	FP	日野	0
6	国枝		三橋	1
4	八田		嶋田	0
2	上島		福西	6
0	友田		中尾	9
0	近藤		中村	0
0	宮川		越智	0
4	飯田		岸本	3
5	塩田		中井	0
1	合田		田代	3
25	(1)	PT	(2)	22

〔審・細沢・若田〕

名短付対昭和の決勝戦

小松商15（7―5、8―7）**12岩国商**

〔戦評〕立ち上がりから岩国商が速攻、小松商がセットで互いにチームの持ち味を生かした攻防を展開するが、ミスが多くなかなか得点をすることができない。なんとなく緊張感のないまま中盤を過ぎた。残り5分になって両チームともリズムが出始め前半を終了。後半、小松商の1人退場の間の岩国商が反撃を開始し10分同点とする。対する小松商は動きにもう一つ切れ味がないものの、GKの堅い守りとポストプレーで要所を締めて対抗する。残り7分で退場者が2

名小松商に出るが、岩国商がチャンスを生かせず、逆に小松商が3連続得点し突き放し勝利をものにする。互いにミスの多い試合であった。

〔岩国商〕

	選手	得
GK	河原	0
GK	岡山	0
FP	吉田	3
FP	善本	1
FP	上村	4
FP	清水	0
FP	佐藤	1
FP	福永	1
FP	浜田	0
FP	藤田	2
FP	松原	0
FP	松林	0
計	PT (2)	12

〔小松商〕

	選手	得
GK	北村	0
GK	馬場	0
FP	高田	1
FP	清水	0
FP	鈴木	0
FP	吉田	1
FP	長谷川	4
FP	谷下	2
FP	松下	4
FP	石村	3
FP	若本	0
FP	畠中	0
計	PT (0)	15

（審・上久保、北井）

▼準決勝

昭和学院 21（7－9、10－8、2－1、2－2）20 読谷

〔戦評〕両チームとも準々決勝で苦戦しながら勝ち抜いての準決勝進出であった。立ち上がり、読谷が3点を連取、昭和も斉藤のロングで2点を返す。その後両チームミスが目立ちなかなか得点できなかったが、15分過ぎあたりから動きがよくなり、読谷が入れれば昭和が入れ返すといった一進一退の攻防が続き、9－7読谷リードで前半を終了する。後半10分昭和が逆転、その後読谷が追いつき昭和が離す白熱したゲーム展開となる。昭和が一時2点差とするが読谷が粘り直前に同点に追いつき、延長戦にもつれこんだ。延長に入っても両者激しい攻防を続ける、結局1点差で昭和が読谷を振り切り決勝進出を果たした。実力が伯仲していただけに最後まで気の抜けないゲームであった。

〔読谷〕

	選手	得
GK	天久	0
GK	謝名堂	0
FP	松田	0
FP	比嘉さ	0
FP	冨着	1
FP	我誕	0
FP	屋良	0
FP	當山	6
FP	比嘉由	6
FP	大城	4
FP	新垣	0
FP	宇栄原	3
計	PT (0)	20

〔昭和〕

	選手	得
GK	石田	0
FP	鳥海	5
FP	唐沢	0
FP	村越	0
FP	時田	0
FP	小野	1
FP	竹田	3
FP	阿部	1
FP	山崎	1
FP	山田	2
FP	斉藤	8
計	PT (1)	21

（審・中本、福田）

名短付 18（13－8、5－7）15 小松商

〔戦評〕有力校同士の戦いとなりゲーム開始直後から熱戦が繰り拡げられた。火ぶたを切ったのは小松商であり、喰い下がる名短付にリードを許さなかったが、18分過ぎ小松商の退場、PTをきっかけに一気に流れが逆転しリズムに乗った名短付は、持ち味の速攻で13－8と5点差をつけて前半を終了。後半に入り、小松商は谷下のロングシュートで連続5得点あげ一時は15－15の同点に追いついたが、名短付は飯田の速攻などで3点差をつけ勝利を手にした。

〔小松商〕

	選手	得
GK	北村	0
GK	馬場	0
FP	高田	3
FP	清水	0
FP	鈴木	0
FP	吉田	1
FP	長谷川	1
FP	谷下	5
FP	松下	4
FP	石村	1
FP	若本	0
FP	畠中	0
計	PT (0)	15

〔名短付〕

	選手	得
GK	徳永	0
GK	柴田	0
FP	陰	1
FP	国枝	4
FP	八田	3
FP	上島	0
FP	友田	0
FP	近藤	0
FP	宮川	0
FP	飯田	5
FP	塩田	1
FP	合田	4
計	PT (2)	18

（審・杉本、浅野）

▼決勝

名短付 15（6－10、9－3）13 昭和学院

〔戦評〕第8回大会優勝の名短付と第10回大会優勝の昭和学院の興味ある決勝となった。

名短付は昭和の早いプレスディフェンス（1・5DF）にいつものスピードある攻撃ができず、あせりからミスが多くなった。昭和はゆっくりしたパス回しから確実にシュートまでつなぎ、また名短付のディフェンスの集中力も欠き、ポストにパスが通るケースが多かった。前半は名短付が調子の出ないまま10－6で終了した。

後半は両チームとも退場が続出し、特に5分過ぎ昭和に3人連続退場者が出てしまい名短付は確実にPTをものにし、また飯田の活躍で9分には同点に追いついた。昭和は同点に追いつかれてから攻撃のリズムが合わず、シュートを打つチャンスをなくしてしまい流れが名短付に移ってしまった。

残り5分、一進一退の展開であったが、結局15－13と名短付の逆転勝ちで幕を閉じた。

〔昭和〕

	選手	得
GK	石田	0
FP	鳥海	0
FP	唐沢	0
FP	村越	0
FP	時田	0
FP	小野	0
FP	竹田	3
FP	阿部	5
FP	山崎	3
FP	山田	0
FP	斉藤	2
計	PT (2)	13

〔名短付〕

	選手	得
GK	徳永	0
GK	柴田	0
FP	陰	1
FP	国枝	4
FP	八田	1
FP	上島	1
FP	友田	0
FP	近藤	0
FP	宮川	0
FP	飯田	4
FP	塩田	4
FP	合田	0
計	PT (4)	15

（審・上久保、北井）

ソウル目ざして
～ヨーロッパ遠征で学んだもの～

全日本男子チームの感想文より

対エッセン戦

荷川取　義浩

今回の遠征最初のゲーム、また、全日本として対外国との6ヵ月ぶりのゲームという事もあり、立ち上がりは、全員、足が地に、ボールが手についていない状態で、ミスが目立った。10分すぎからは徐々にペースを上げ、コンビも2人または3人といいタイミングでシュートにつながっていった。一方、エッセンは、左側の攻撃がすばらしく、そこでシュート、もしくは、逆からスルーで走ってきたプレーヤーにパスを入れるプレーが多く、その左側は、サイドに西独ナショナルのフラッツ、45度にアイスランド・ナショナルのギスランというプレーヤーで、特に、フラッツには、サイドから逆スピンシュートなどで要所を決められた。また、エッセンとしてのチームも速攻が速く、ボールつなぎがうまかった。逆に戻りとしては、そんなに速くなく、全日本もいい形の速攻が何本かあった。

ディフェンス面では、全日本のプレスディフェンスに浮き足だったエッセンが、ミスを連発、プレスディフェンスの効果はあった。

ゲームとしては、終盤、残り5分を切ってから得点がストップし、2点差で逃げ切られた。

対デュッセルドルフ戦

西山　清

過去私は何度か西ドイツ遠征に参加し、世界でもトップレベルのクラブチームの集団といわれるブンデスリーガーと数多く試合を行いましたが、今回のデュッセルドルフとの対戦は、記憶に残っていません。また、順位についても、上位にランクしていた記憶もありません。それが我々と対戦した時は、リーグ前半とはいえ、第2位というすばらしい位置にランクしており、チームの状態も最高によい時期ということもあり、我々は、このデュッセルドルフチームに、惜敗してしまったのです。敗因として、自分なりに分析してみると、一つは、チームの中に我々が雑誌でよくみるスーパースター的存在の選手がいないということから、心のどこかにスキがあったのでは…。二つ目にこの遠征全般にいえることだが、立ち上がりと、残り10分が、今一つ攻めきれず、守りきれない所があった。その他を見ると、どのチームと比べても決して負けていない。つまり、その互角以上の時間帯を、1試合続けることができたら……。

これから我々全日本チームは、その良い時間帯のイメージを忘れず、活動していかないといけないと思う。つまり、対戦相手を見て試合すると、油断や恐怖につながり、決して良い結果にはつながらない。しかし、自分自身の役割、チームメイトへの信頼感をしっかり認識・自覚することができれば、今の全日本は、もっともっと強くなると私はこの試合の中で感じた。

対グンメルスバッハ戦

山本　興道

西ドイツでの最終戦で、さすがにブンデスリガーのトップクラスだけあってディフェンス、オフェンス何一つとっても手応えのあるチームに思えました。

グンメルスバッハの攻撃では、フローターに対しての詰めの悪さ当たり負けなどあったものの、力強いフットワークでロングシュートを放ち、日本のキーパーでは上のハイコーナーに打たれた場合、高さの違いや慣れていないこともあって、わかっていても入ってしまうケースが何本かあったようです。

ディフェンスの課題としては、最初の動きに対して厳しい当たりでワンクッションを入れるなどで、臨むことが大切だと思いました。

また、サイドシュートを打ちに入ったとき、半身ずれたときにキーパーの動きを見ていたり、常に一対一を攻める意志をもって攻撃するところは勉強になりました。

西ドイツの生活

首藤　信一

今回、全日本ヨーロッパ遠征は西ドイツのデュッセルドルフでの生活から始まりました。ホテルは、その空港からすぐ近くの所にあり、そ

このホテルの人たちが大変気を使ってくれて、過ごしやすいものでした。特に、料理長(シェフ)の料理は、一回一回料理のあと、良かったか悪かったか聞き、少しでも日本人の味に近づこうと努力してくれましたし、今までヨーロッパに来るとなかなか野菜を食べる事ができませんでしたが、ここでは毎日・山のようにサラダを出してもらいました。いつも、食事で体調をくずす事が多くありましたが、今回は心配がなく、ゲームへ向けて体調を整える事ができました。

あと、遠征中大変な事が移動と、その国の言葉で移動の方は、３ゲームとも比較的近く、大型バスでアウトバーンを行くので、疲れる事もなく楽なものでした。

言葉の方も、今回は、塙コーチ、酒巻さん、玉村さんと３人もドイツ語を話せる人がいて、ゲームの事、練習の時間、レセプションでの相手チーム選手との交流もスムーズに進み、苦労する事がありませんでした。

最後に、西ドイツ生活で一つだけ良くなかった物が天気の方で、晴れた時間がほんのわずかしかなく、毎日雨で、デュッセルドルフ近くのライン川は、毎日、水かさが増し、他の所では氾濫した所もあり、テレビでもニュースが流れるくらいでした。

今回は、いつも苦労していた食事、移動、言葉がスムーズに進み、選手は、体調を崩す事もなく、自分では、今までで一番良かった西ドイツでの生活であったと思いました。

ヨーロッパ遠征で一段とたくましくなった全日本チーム

ベストマニエル島の印象

田口　隆

私たちは、アイスランドに着いて４日目の朝、レイキャッビックから30分程、プロペラ機で揺られて、ベストマニエル島に着きました。

まずこの島について説明しますと、火山の噴火によってできた島のようで、人口は五千人程で、以前は違う場所に集落があったそうですが、火山の噴火によって、今現在の場所に移ったそうです。

最近の噴火では、一九七三年の噴火で、ちょうど真夜中に起きたという事で、その時、島民は４時間後には全員、レイキャビックに避難していたそうです。今でも常にそのような時に備えた態勢ができ上がっているようでした。その時に噴火した山は今でも、所どころから湯気が立ちこめ、私たちが手で地面を触れるととても暖かく感じられ、島滞在中に降る雪などは、すぐに解けてしまうような状態でした。また、ここの島民は、噴火でできた山のため、緑が島に無い事から、幼い子どもから、老人に至る全島民の力で、草木を植えているという事です。私たち緑を見慣れた者には、いささか想像もつかない事でしょう。

また、この島にもハンドボールのクラブチームがあり、対戦しました。結果は、私たちの快勝で終わりました。そしてその試合から２日後には、アイスランドナショナルチームと対戦し、４点差で敗れましたが、最後まで予断を許さない展開でありました。ここベストマニエル島では、この２試合をしたのですが、ちょうどその時に、この島にししゃもの買いつけに訪れている数人が、日の丸を振りながら私たちを応援してくれたのには、全員勇気づけられました。

私たちにアイスランドの家は、このような家ですと自宅を開放して頂いた、バスの運転手のハリーおじさん、そして滞在している間

色々とお世話して頂いた島のハンドボール関係者、熱心に試合を観戦してくれた島の人々、たくさんの人の親切に逢い、とても快適な滞在をする事ができた事を感謝しています。また訪れるチャンスがあるのなら訪れてみたいものです。

ベストマニエール島戦

宮下　和広

このゲームは、ドイツで3連敗したあとで絶対負けられない一戦であった。

しかし、この日は午前中のトレーニングは今一つ元気がなかったせいか、トレーニングのあとスタッフからゲキを飛ばされたこともあって、ゲーム前のアップは選手一人一人が気迫のこもったアップをした。

ゲームが始まり、まずドイツとの攻撃の違いがあった。

それは、サイド・フローターにポストがよくからむこと、そして、もう一つは速攻が思ったよりも早く、すきあらば、どんどん前へ出して来る。そんなこともあって今一つリズムがとれなかったが、半ば過ぎくらいから、リズムをつかみ、点を重ね14対7で、前半を終った後半に入ると、相手チームのラフプレーが目立ち始め、興奮してチームとしてのリズムを崩し、得点は低かったけれども、よく守ることができ、9対8、合計23対15で勝つことができた。

このゲームでの反省は、逆速攻に対する戻りの遅さと、勝っているのに、自分たちで焦り、ペースを乱してしまったことだった。

しかし、このゲームでの収穫といえば、相手のラフプレーにも怯まず、それ以上の気迫のあるプレーが、ゲームを通じてできたことがよかったと思う。

体格・パワーでは負けるかもしれないが、それにもまさる精神力も持ち試合に臨まなければいけないと痛感したゲームだった。

対アイスランド戦

酒巻　清治

アイスランドチームとは、頭初の予定通り3試合行い、2敗1分けと、勝つことはできなかったものの、内容的には、今までトレーニングして来たことが、かなり通用し、明るい見通しができたと思う。

相手チームの両フローター（ギスラソン、アラソン）が、現在西独リーグでプレー中のため、フルメンバーではなかったにしろ、いずれも国際試合数が、百試合以上か、それに近い数字を残している選手ばかりで、全く気を抜けないチームでありました。

一試合目、両チームとも堅さが見られたものの、日本のDFラインを今までより高くした1・2・3DFが効を奏し、全日本ペースで進んでいきましたが、後半途中から、イージーなミスが続き、6連続失点をしてしまい、そのまま逃げきられてしまいました。アイスランドの速攻が思ったよりも速く、全日本の帰陣の遅さが気になるゲームでした。

2戦目は、1戦目に比べ、双方とも積極的なプレーで、一進一退の攻防が続きました。全日本は、前日の試合で、自分たちのミスから得点されていたので、まず帰陣の速さを義務づけ、ミスのない試合を心がけました。

後半残り10分まで全く互角の展開でしたが、勝負所で仕かけたプレスDFが、裏目に出て最後は振り切られてしまいました。一番苦しい場面でのプレスDF、相手も苦しいところなので、もうひと踏んばりして、速攻で点を取れていたら、展開が変ってきていたように思います。

3戦目、アイスランドの出足が悪いところ全日本の速攻が冴え、一時は、6点差まで開いたものの、時間がたつにつれ、ペースを取りもどしたアイスランドに、前半終了間際、6連続失点を許してしまいました。後半は、お互い譲らず、終了まで厳しい攻防が続いたものの、あと一歩及ばず、引き分けに終ってしまいました。

対アイスランド戦について言えることは、DFは1：2：3、プレスともかなり有効であったと思います。しかし、DE体型を切り換える瞬間のイージーなチェンジミス、チェックミスが、大事なところで出てしまったので、今後このようなミスを失くしてゆけば目標とする失点25点以内を達成できると思います。攻撃は、相手DFが、1・2・3の場合、従来通りの攻撃パターンを駆使し、速攻での得点をアップすれば、かなり得点力は増すと思いますが、0・6DFをされた時に、得点力がダウンするので、今後のトレーニングで克服していかなければいけない点だと思います。

アイスランドチームの印象は、非常にバランスの良いチームだと思います。このチームに両フローター（ギスラソン、アラソン）が加われば、今回以上に幅が出て、さすがに世界のトップチームだなという感じはしました。5月のスポーツフェアでは借りを返したいと思います。

アイスランドのハンドボールについて

藤井　孝一

今回の遠征でアイスランドチームとは、ナショナル3試合、クラブチーム1試合結果は1勝2敗1分でした。アイスランドの攻撃面で強く印象づけられたものは、西ドイツのように力でぐいぐい攻め

てくるのではなく、セットにおいてはサイド及びセンターから仕かけ始め、クロスからのずらし、フローターとのポストプレー、カットインプレーなどが攻撃面で随所に行われて強く印象づけられました。特に、サイドの空走りの時フローターのクロスはマークしにくく、日本チームとしてDFを崩されたプレイの1つだと思います。また、速攻が速いのも忘れてはならないアイスランドの特徴だと思います。シュートをした時のボールのフォローに必ず2人いて、日本チームも何本かフォローボールで得点されてしまいました。ボールに対する執着心を忘れず、常にボール追ってすきあらばシュートを打つチームだと感じました。

ディフェンス面ではやはり高さをいかした一線のラインを引かれ、声を良く出すディフェンスの中心となる選手がいて、日本側の攻撃としては、ディフェンスが思い通りに詰めてこないため攻撃しにくい場面がありました。特に45度のディフェンスが詰めてこないのが目に付きました。自分から見たアイスランドのオフェンス、ディフェンス面を上げましたが、日本とのレベルの差はないと思いますが、最後にディフェンスを強引に分って入ってくるプレーなどがアイスランドの強さだと感じました。

アイスランドの印象

矢内 浩

アイスランドは、人口25万人の小さな島国で、火山地帯のため緑の「植物」が少なく、溶岩がとても目に付くところでした。

産業は漁魚中心で、日本とも関係が深く、柳葉魚(ししゃも)を買い付けに数人の日本人も滞在しており、ゲームのとき応援にこられていました。

寒さの方も厳しく、外出の際、耳や鼻が痛くなるほどで、雪の方も降るが、地熱が高いため積もることはないとのことでした。

物価の方は、島国のため輸入品が多く、日本の倍ぐらいしました。おかしなどは、二百円から二百五十円ほどで、ビールだけ安かったので選手たちは「ほっと」としました。

アイスランドでは、ハンドが国技のため、国民もハンドの知識が高くて、とくにテレビ中継が多く、自然と関心が高くなっているのだと思いました。ゲーム会場にも多くの客が足を運び、すごい応援をしているのを見て、日本でもハンドがメジャースポーツになり、多くの国民にハンドを理解される日が早くこないかなあと思ったのは、私だけではなかったと思います。

最後に、この遠征で私たちが得たものを、日本へ帰ってから自分のものにし、オリンピックで目標である6位入賞できるように頑張るつもりです。

遠征の感想

橋本 行弘

今遠征西ドイツでは、3戦3敗、アイスランドでは4戦1勝1分2敗という結果に終わりました。感想としては、全部勝って帰国した訳ではないので満足のいくものではないのですが、良い面も悪い面をも全部引き出すゲーム内容ができたので、ソウル・オリンピックに向けてのチームのプラス材料になった遠征だと思います。

まず良い面では、オリンピック予戦以来約半年ぶりの対ヨーロッパ選手とのゲームになった訳ですが、意外と選手個々のミスも少なく、各選手にオリンピックへ向けての自覚や責任が現れてきたのではないでしょうか。他には、昨年暮れから手がけているプレスディフンスが、思ったより成功した事も収穫の一つです。競った場面や、ここで1点ほしい時、また、ゲームの流れを変えたい時などまだまだ完璧とまではいえませんが、十分相手の攻撃を困らすようなディフェンスには効果があった事は確かです。と同時に、1・2・3ディフェンスが、さらに安定した事もチームの自信につながったと思います。

良い面以上に悪い面も多く出ました。特に目立ったのは、どのゲームも終盤残り10分ぐらいまでは、1点、2点差で競り合っているのですが、あと残り10分ぐらいから引っくり返されてしまい、負けるといった結果のゲームが多くありました。

ではなぜ残り10分を守りきれないのでしょうか？ チーム内でもいろいろな意見が出され、スタミナ不足や集中力不足といったいつもと同じ答えが出てきましたが、もともと体格もパワーも違う外人相手に、体も小さく、力も弱い日本人が立ち向かっていくのですから、勝機をつかむためには、今、全日本が目ざしている〝そつのないプレー〟が要求されるでしょう。そつのないプレーを目ざしてもう4年目になりますが、ここに来て改めてその重要性を痛感させられました。もう一度基本に帰る事も必要ではないでしょうか。

今遠征は、多くの自信と課題を土産にする事になり、まだまだやる事は山ほどありそうです。ソウル・オリンピックまであと150余りです。ハンドボール漬けになって頑張ってみたいと思います。今後共、応援よろしくお願い申し上げます。

全日本、ジュニア全日本女子選手の体力の比較

日本ハンドボール協会トレーニング・ドクター群
阿部徳之助（自治医大）　竹内　正雄（星薬科大）
森川　寿人(九州女子大学)西山　逸成（防衛大学）
協力者　自治医大ハンドボール部員

1．はじめに

我が国のハンドボール競技力を向上させるためには、世界のトップレベルにある選手たちの形態や体力を知っておく必要がある。

今回は、日本ハンドボール協会創立50周年記念行事として、世界のトップレベルにある、ソ連、韓国、アメリカのチームを日本に招き、国際試合が展開された。

その選手たちの体力測定の実施について、各国チームとの当初の計画が直前になって協力を得ることができなかったのが残念であった。

しかし、全日本、全日本ジュニアたちの比較検討から今後の強化策に役立てるための知見が得られたので報告する。

2．方　法

①対象　　全日本、全日本ジュニア
②日時　　1987年5月28日(木)13：00～16：00
③場所　　栃木県大平町　日赤栃木体育館
④測定項目
　(イ)　体　格　　年齢　身長　体重
　(ロ)　形　態　　胸囲　座高　上腕囲(伸展)
　　　上腕囲(屈曲)　前腕囲　大腿囲
　(ハ)　運動能力　肺活量　背筋力　握力(右、左)

3．結　果

表1、2全日本、全日本ジュニア選手の形態と体力、図1、全日本と全日本ジュニア選手の形態と体力の比較を示したものである。

(1)　体　格

図1をみると、身長では日本168.3±4.88cm、ジュニア165.8±5.84cmで日本が4.5cm高かった。体重では、日本64.8±5.60kg、ジュニア60.4±3.66kgで日本のほうが4.4kg重かった。

(2)　形　態

座高では、両チームはほとんど同じ値であった。胸囲をみると、日本85.6±2.04cm、ジュニア88.7±4.84cmで、日本のほうが3cm大きい。

次に上肢の上腕囲伸展では、日本26.3±2.14cmジュニア25.9±2.09cmでほぼ同じ値を示している。上腕囲屈曲、前腕囲では、ほとんど同じ値であった。

下肢の大腿囲をみると、日本56.2±3.50cmジュニア55.6±2.67cmで全日本がやや勝っていた。

(3)　運動能力

肺活量では、全日本3532.8±347.2c.c.、ジュニア3458.7±449.8c.c.で日本が741c.c.だけ高かった。

背筋力では、日本106.9±16.91kg、ジュニア100.5±20.65kgであった。

握力でも両チームともほとんど同じ値を示した。

表1　全日本の体格と体力

◎チーム名 日本(女子) 体力測定用紙　　S 62年5月24日

						上腕囲				前腕囲		大腿囲				握力	
						伸		屈									
氏名	年齢	身長	体重	座高	胸囲	右	左	右	左	右	左	右	左	肺活量	背筋力	右	左
葛生 豊子	24	167	65	88.9	86	27.5	26.5	29	28.5	26.5	25	60	59	3650	94	34.5	30.5
小深田 由紀子	22	172	65	92.1	88	25	23.5	28	26	24	24	60	59.5	3350	108	38.5	33.0
村山 みどり	18	176															
前田 重子	25	163	59	83.9	87	25	25	29	28.5	24	23.5	51	50	3300	145	43.5	38.0
武藤 夕起子	23	169	69	91.3	96	30	29	33	30.5	27	26	62	60	3800	118	44.5	39
根本 幸枝	21	175	64	92.1	85	25	24.5	28	28.5	24	22.5	55	54	3120	123	40	36.5
近藤 育子	22	160	65	86.8	93	29	27	31	29.5	25	24	59	58	3140	77	36.5	31.0
荒木 一美	21	168	82	89.4	104	32.5	31.5	34.5	32.5	29	27.5	63	62	3800	99	53	50.5
久保田 美香	21	164	57	86.6	85	24	23	27	25.5	23.5	22	50.5	50	3750	104	39	33.5
丸田 紀子	21	171	61	92.7	86	25.5	24.5	27.5	26.5	24	22.5	52	50	3600	128	41	31
岩村 英子	25	173	66	93	89	25.5	25.5	28.5	28	25	24.5	55.5	54	4300	120	42	42
野嶋 ちえみ	23	166	62	90.6	84	26	25	28	27	25	24	53	53	3520	腰痛	37	32
磯山 弘美	19	170	64	86.8	85	25	25.5	29	28	25.5	24	54	53	2900	90	42.5	35
林 智恵	18	173	69	90.0	90	24.5	26	27	30	24	26	56	57	3800	108	31.5	34
鈴木 美幸	21	166	58	85.5	83.5	24.5	24.5	27.5	26	23.5	22.5	54	53	3000	85	37.5	37
比嘉 晴美	17	162															
山岸 和子	23	173	68	90.0	90	25.5	25	29	27.5	25.5	25	57	56	3900	99	41.5	34.5
山口 妙美	21	168	66	90.4	89	27	26.5	29.5	29.5	24	25	58	56	3400	92	34	24.5
小口 明子	20	171	68	89.2	89	26	24.5	28	26	24	24	56	56	3500	106	38	32
井沢 由美子	22	158	58	86.9	87	25.5	26	27	29	23.5	22.5	55.5	53.5	3760	122	26.5	28.5
X	21.4	168.3	64.8	89.2	88.7	26.3	25.7	28.9	28.2	24.8	24.1	56.2	55.2	3532.8	106.9	39.1	34.6
S.D	2.15	4.88	5.60	2.57	4.84	2.14	1.93	1.98	1.79	1.42	1.42	3.50	3.47	347.2	16.91	5.65	5.52

表2　全日本ジュニアの体格と体力

◎チーム名　ジュニア女子体力測定用紙　　S 62年5月24日

						上腕囲				前腕囲		大腿囲				握力	
						伸		屈									
氏名	年齢	身長	体重	座高	胸囲	右	左	右	左	右	左	右	左	肺活量	背筋力	右	左
梅津 直美	20	168.8	59.5	87.9	85	27	27	28	28	23.5	23	52	51	3300	144	36	33
三浦 葉子	19	174.5	65	95.6	87	25	24.5	28	26.5	24.5	23.5	55.5	53	3780	84	38	34
大林 恵子	20	157.2	52.8	86.1	83	23.5	23	27	26.5	23	22.5	51	50	2440	125	30	29
太田 弥生	20	162.5	61	85.2	85	28	28	30	29.5	24	23:5	55	53	3400	114	40	35.5
小池 美由紀	19	164.2	60.0	83.8	85	23	22	26	24.5	23.5	22.5	54	53	4360	93	43.5	36
武津 優子	19	171.8	58	90.3	85	25.5	25.5	28.5	27.5	23	22	51	52	3220	100	39	32
市来 未央	19	158.6	60	86.5	85	30.5	28.5	33	30	26	25	60	58	3700		41	
白鳥 貴子	19	167.6	68	88.1	90	29	30	30.5	33	25.5	29.5	59.5	60	4000	121	35.5	40
貞本 三奈子	18	161.4	60	88.1	90	27	27.5	28.5	29	24.5	24	57	56	3220	110	40	34
稲田 知鶴	18	174.3	63	92.6		23.5	23	26	26	24	23	58	54	3120	78	35.0	33.5
斉藤 八千代	18	171.0	63	89.1	84	23.5	23.5	27	28.5	23	24.	55.5	55.5	2900	85	30.5	39.0
篠原 由美	18	158.7	56	89.2	84	26.5	26	29	29	25	23.5	55	55.5	3700	78	44.5	39
森田 初美	18	172.5	62.5	87.9	84	26	27	27.5	29	23.5	24.5	57	56	3400	110	36	39
小林 江利子	18	164.3	61	87.7	86	25	24.5	28	26	23.5	22.5	56	56	3740	69	36.5	31.0
川井 理恵	18	160.2	56	87.6	85	26	26	28.5	27.5	23	22	57.5	57.5	3600	95	33.0	26.0
X	18.7	165.8	60.4	88.4	85.6	25.9	25.7	28.4	28.0	24.0	23.5	55.6	54.7	3458.7	100.5	37.2	34.4
S.D	0.78	5.84	3.66	2.79	2.04	2.09	2.23	1.73	2.00	0.91	1.37	2.67	2.65	449.8	20.65	4.10	3.95
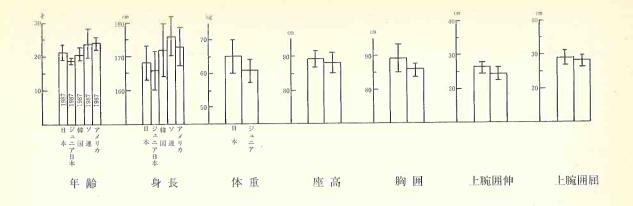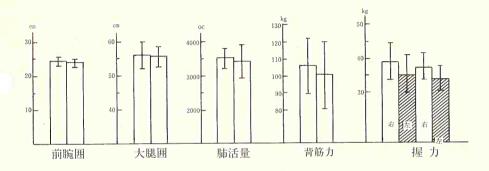
図2　1987年ジャパンカップの日本・日本ジュニア・韓国・ソ連・アメリカの形態、体力の比較

大腿囲でも差がみられない。

(3)　**運動能力**

呼吸・循環器系の機能での、肺活量は体表面積に比例することから、これを身長比でみても、全日本とジュニアとの間には差がみられない。

次に背筋力、握力の筋力をみると、ここでも差がみられなかった。

これらの結果からみると、全日本の体力があるとはいいがたい。今後、女子選手の体力の向上に一層の努力が必要であろう。

4．考　察

(1)　**体　格**

身長では、図に示したごとく、全日本が3cmほど高いが、統計的には差みられなかった。体重では、ここでも全日本が4kgほど勝っていた。

(2)　**形　態**

上肢の周径囲では、上腕囲伸、上腕囲屈、前腕囲ではほとんど同じ値である。また、下肢の周径囲の

日本協会だより

3月度常務理事会議事録

日　時　昭和63年3月12日(土)　13：30～
場　所　岸記念会館スポーツマンクラブ
出席者　安藤専務，滝口、大野、川上、北川、塩川各常務理事、事務局
議　題
1．スポーツフェアー、アイスランド国際親善大会について
開催要領、日程スケジュール等について協議を行った。
2．男子ナショナル欧州遠征について
西ドイツ、アイスランドへの強化遠征は下記日程で実施する。
出　発　3/24(木)　成田発　21：30(BA-006便)
滞在地　3/25～3/30　西ドイツ
　　　　3/31～4/9　アイスランド
帰　国　4/10(日)　成田発　13：15(BA-005便)
3．東洋証券国際試合について
東洋証券より冠料の後援を得て実施の運びとなった。
4．その他
諸運営上の問題点について審議された。

4月度　常務理事会　議事録

日　時　昭和63年4月16日(土)　午後1時30分～
場　所　日本協会事務室
出席者　荒川副会長、安藤専務、滝口、川上、伊藤、北川、大塚、西村、塩川各理事、事務局
議　題
1．アイスランド（欧州）遠征報告、
安藤団長よりドイツに於ける戦評、及びアイスランドの国情、及び戦評
今後の課題など報告が為された。
2．ユーゴカップ遠征について、
団長北川強化担当、役員、選手は前回遠征と同じ、但し、選手については若干名の差し替えを北川氏に一任した。
3．スポーツフェアーについて、
別紙日程表により説明が為された。
審判は4月30日　斉藤実、　千野恒夫、
　　　5月2日　後藤登、　島田房二、
　　　5月4日　川島克之、　森敏郎
　　　5月5日　島崎政治、　井上真也、
4．ナショナル、Jナショナルについて、
別紙役員を選出、選手は4月24日からブラザーで行われるセレクションの為の合宿の結果検討される。
5．アジアユース選手権大会について、
参加する予定であるが、詳細が不明なので問い合わせる。
6．中国より男子ナショナル招待について、
全日本総合選手大会直前となるため、参加するためには選手の選考方法も検討しなければならない。招待国はクウェート、日本、シリア、香港、インドの予定である。
7．東洋証券（オリンピック壮行試合）について
8．荒川副会長挨拶趣旨
仕事は注意に注意を重ね下部組織の信頼を得るよう努力されたい、
常務理事間の意思の疎通を計り、お互いに補い合い立場を超えて協力されたい。
各会議での決定事項は速やかに実行に移すよう留意されたい。
9、第29回全日本実業団選手権大会（女子）
愛知県半田市に於いて5月12日より15日まで行われるが、その準備状況など報告された。
10、第13回日本リーグ
昭和63年10月23日～11月27日
昭和64年1月22日～3月12日の日程で行われる。

「日本ハンドボール史」購入の申し込みをお早めに

みなさますでに御承知のように、日本ハンドボール協会創立50周年を記念しての「日本ハンドボール史」が、今春無事完成致しました。

この冊子は、右の内容を御覧いただいてもわかりますように、日本ハンドボール界の50年の歩みを余す所なく御紹介するとともに、これまで埋もれていた様々なエピソードを紹介し、記録としても、読物としても大変興味深いものとなっております。

これまで日本ハンドボール界のために尽くしてこられた方々にも、また、今後日本ハンドボール界を背負っていただく方々にも、是非御一読いただきたいと思います。

〔「日本ハンドボール史」の主な内容〕

〔体裁〕 Ｂ５判　880頁　ケース入り

〔主な内容〕

- 日本ハンドボール50年の歩み
- 47都道府県協会史
- 全国連盟・団体の歩み
- ハンドボール史を彩るエピソード
- 全国大会の記録をすべて
- 海外の主要な大会（オリンピック、世界選手権、アジア大会など）の記録

〔定価〕　7000円

※次第に残り部数が少なくなってきておりますので、御希望の方は、なるべく早めに下記宛お申し込み下さい。

〒150東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
㈶日本ハンドボール協会
「日本ハンドボール史」係
TEL　03-481-2361

アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

百個のグリップ力。アウトドア専用。

マルチコンソールが、グラウンドを確実にグリップする。初のアウトドアハンドボールシューズ、スカイハンド®SL。

アウターソールには、片足に100個以上のポイントを独特の形状で配置。アウトドアのグラウンドコンディションに確実に応えるハンドボールシューズの登場です。側面には傾斜をつけ、倒れ込みシュートを打ちやすく。かかと部を拡げて着地衝撃を吸収しやすい形状に。大空での空中戦を、十二分に意識した、初めてのハンドボールシューズです。

品番 THH501 品名 スカイハンド®SL
メーカー希望小売価格 ¥9,200
カラー/ホワイト×レッド
　　　ホワイト×ネイビーブルー
サイズ/22.5～28.0cm

株式会社 アシックス

●お問い合わせは株式会社アシックス消費者相談課までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 ☎(078)303-2233(専用)(078)303-3333(大代)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 ☎(03)624-1814(専用)(03)624-2221(大代) ■本文中®は㈱アシックスの登録商標です。

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二七三号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和六十三年四月二十五日印刷
昭和六十三年五月一日発行
東京都渋谷　一ー一ー一
電話　代表　三三六一
振替　東京　六ー九八三四八番
編集兼発行人　安藤純光
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）